



今回の紙面

- ◆地域医療最前線 NO. 30 《大塚昭雄 先生》
- ◆看護師さんのページ NO. 10 《福井孝子さん》
- ◆研修医のページ NO. 15 《角 春賢 先生》
- ◆「島根の医師」Coming Soon 《飛田憲彦さん》
- ◆自治医科大学訪問
- ◆しまね地域医療の会
- ◆医師確保対策室からのお知らせ



地域に親しまれ、信頼され、
愛される病院

地
域
医
療
最
前
線
NO.30

公立雲南総合病院 院長 大塚 昭雄



公立雲南

総合病院は、昭和23年3月に戦後医療に恵まれない雲南地方で、地域の人々が生命の尊さを知り、それを守るために「共存」を合言葉に「我々の手で我々の病院を」の熱意で島根県農業会により雲南共存病院として誕生しました。病床数は50床で、内科、外科、小児科、産婦人科、耳鼻科、眼科の6診療科でスタートしました。

昭和36年に雲南10ヶ町村の組合立の病院となり、自治体病院としての基盤が築かれました。そして、平成17年に平成の大合併により1市2町（雲南市、奥出雲町、飯南町）の組合立の病院として引き継がれています。平成12年度から介護保険制度が開

始され、平成14年に地域の要望により介護療養病棟を増築し、病棟再編を行いました。現在一般病床202床（重急性期12床）、感染症病床4床、回復期リハビリ病棟30床、介護療養病棟48床、精神科病棟50床（一時閉鎖）の計334床の総合病院として、雲南2次医療圏域の中核病院としての役割を担っています。

圏域で唯一の200床以上の病院として、救急医療はもとより急性期、回復期、慢性期の一連とした医療と訪問看護、訪問リハビリ、訪問介護の在宅ケアを合せて行うことによって、地域包括医療の提供を行っております。

当院の診療科は、内科、外科、小児科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、精神科、リハビリテーション科の14科であります。

平成16年度から卒後研修義務化以降、当院も医師確保に困難な状況で、特に内科医師の減少が顕著です。平成14年に34名であった常勤医も現在では20名に減少しましたが、今が一番の辛抱の時と各科協力しながら地域医療を行っています。

昨年の救急車搬入は688件で、入院は380件でした。手術件数も整形外科、外科を中心に眼



科、耳鼻科、産婦人科、脳外科、泌尿器科で1213件あり、そのうち全麻症例は278件でした。今年度は人工関節センターを開設しましたので、整形外科の手術数は更に増加が見込まれます。内科も内視鏡は上部2503例、下部588例でした。

豊富な症例数がある地域ですので、やる気のある若い先生には、十分な経験が積める病院ではないかと思えます。松江、出雲から約30分の距離です。御息の教育を考え、おられる中堅医師も大歓迎です。

地域医療に熱意ある先生方、一緒に働きませんか、よろしくお願ひします。



看
護
師
さ
ん
の
ペ
ー
ジ
NO.10

松江市立病院

不妊症看護認定看護師 福井 孝子

不妊症の方の悩みを理解し、看護師

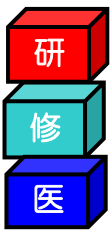
としてかわる
ことができま
か？日本では2
003年に47
万組のカップル
が不妊治療を受
けていると報告
されています。



そして、生殖補助医療によって生まれ
た子供の数は、出生児55人に1人と
算出されています。島根県でも特定不
妊治療費助成制度ができ、体外受精や
顕微授精を受けたカップルに治療費の
一部を助成するかたちで経済的支援を
行っています。また、松江市も一般不
妊治療費助成制度で、人工授精や検査
などの一部を助成し、経済的支援を行
っています。このように不妊に悩むカ
ップルが増えるという情勢の中で、私
は看護師として何ができるだろうか？
と自分に問いながら、不妊治療が長期
になり結果が出ないことへの焦燥感や
挫折感に対するかわりの難しさや看
護師として無力感を感じる日々を過
してまいりました。不妊症の方のために看
護師にできることを勉強したいと思っ
たことが、不妊症看護認定看護師教育
課程に入学するきっかけとなりました。

不妊症看護について知識を深め、現
在は女性看護相談を担当しています。
治療選択時における日常生活への影響

等の情報提供、長期治療者への継続看
護、精神面へのケアなどを提供してい
ます。不妊症看護を学んだことで、助
産師として幅広い相談内容に対応でき
るようになりました。チーム医療の充
実をはかるため、医師やコメディカル
スタッフとの連携や不妊症の方へのチ
ームアプローチに対するコーディネー
ト役としてチームの中心的な役割を担
っています。院外では、市民セミナー
や研修会で講師をしたり、行政の不妊
対策検討委員として活動しています。



のページ

NO.15

益田赤十字病院

1年目研修医 角 春賢

益田赤十字病院は、島根県西部に位



置し、益田市の人口5万人を中心にし
て、周辺地域の人口約9万人以上を対
象に、地域の中核を担っています。
この益田赤十字病院で初期研修をさせ
ていただいて、8ヶ月あまりが経とう
としています。悪戦苦闘の毎日ですが、
指導医の先生方、病院スタッフの方々
にお世話になりながら、充実した研修
生活を送らせていただいています。

研修をされていて、一番思い悩むのは、
患者さんと何を話せば良いかです（自
分が話し下手なのもあるのですが）。
患者さんは、誰一人として同じ人生を
歩んできた人など居らず、色々な事を
背負って生きてこられ、そして、心や
体を病まれて病室に居られます。また、
ほとんどの方が、目上の方々です。そ
のような患者さんと、きちんと向き合
って話ができるのか・・・と思うと気
が重くなります。特に、死に直面した
患者さんに対しては、どうしたらいい
か分からず、病棟に行く足取りが重く
なることが、たびたびありました。し
かし、行かないや、と思い切って病室
に入って、患者さんと話をしてみると
（実際は、話を聞いているだけのこと
がほとんどですが）、患者さんが思っ
ていることなど、色々な事を話して下さ
ったり、逆に患者さんから、研修大変
だろうけど頑張ってるね、と励まされ
たり、来てくれて嬉しいと、言っ下さ

ることが良くありました。患者さんに、
自分が救ってもらったことがしばしばで
す。そして、患者さんに、人生の勉強
をさせていただいています。

都市の大規模な病院でも地方の病院
でも、患者さんとの関わりに差は無い
と思います。地方の地域に根ざした
病院では、より深く、患者さんと関わ
れる環境にあるような気がします。初
期研修も、あ
と1年数ヶ月
余りですが、
医師としても、
人間としても
成長できるよ
うに頑張ろう
と思います。



「島根の医師」
Coming Soon

島根大学医学部

飛田 憲彦

皆さん、こんにちは。突然ですが、
私は県外出身の島根大学医学部の学生
です。一度、文系の大学を卒業し、ご
縁が合って島根県に参りました。順調
に行けば（？）来年、研修医になりま
す。半年前までは、確実に地元・関西
に帰ろうと思っていました。

それが、今は、島根県に残って地域

医療や大学でがんばろうと思っ
ています。人生、思いがけない方向に進んだ
りして、自分でも驚いています。その
ういうのも面白いと思うような歳にな
りました。

昨年、大学のチュートリアル教育に
ついての教材用 DVD を有志で作ら
ました。製作過程を通じて自分たちも楽
しめて、先生方にも好評でした。味を
占めて、第2作の製作に取りかかりま
した。『島根の医師』と題打って、「島
根大学医学部附属病院・研修医募集
PRフィルム」を作ることにしました。
せっかくなので、今年10月に行われ
る『夕張学生映画祭・学校 PR 部門』
に出展することを目標にしました。そ
のため、「島根大学医学部映像研究会」
を結成しました。すでにクラウンキ
ン、病院長・医学部長・卒後臨床研修セ
ンター長の各先生方や、仁寿会・加藤
先生に協賛・後援いただいております。順
調に撮影が進行しています。近々皆さ
んにお目見えできるかと思えます。

フィルム作りのために、県の現状を
調べました。状況は厳しいことを知り、
メンバーも県や母校に愛着が湧いてき
ました。医師不足を何とかするために
は、まずは大学に人が残ることが大切
ではないか、と考えました。そのため
の研修医募集の PR フィルムです。そ
の過程で私自身も残ることに決めまし

た。大学に人が増えると、地域にもつ
と医師を派遣することができるようにな
ると思います。そして大学や県や
県立中央病院が協力して、島根県の地
域医療を支えてほしい、と思
いました。

表彰式で夕張の赤じゅうたん(?)
を歩けるようにがんばります。

『チュートリアル教材用 DVD 製作・医学部長感謝状授与式記念
写真。木下医学部長、森田教授、土屋教授と映像研究会』



自治医科大学訪問

5月19日(月)、自治医科大学の担
当課長会議に出席するため、自治医科
大学を訪れました。その会議に併せ、
島根県出身医学生と私たち県の担当者
との交流会がセッティングされていま
す。この交流会に男子7名、女子6名
の13名の学生が集まってくれました。

最初は学生も私たちも少々緊張気味で
したが、時間の経過とともにハードな
勉強をしながらも部活動やバイトに頑
張る学生生活の様子を聞くことができ
ました。

また、学生は「私は〇〇科に興味があ
る」「休みを利用して病院見学をした
い」など将来を見据えて、いろいろ動
こうとしています。こちらにも応えられ
る要望にはしっかりと応えていきたい
と思います。

今年も昨年同様、母校で自治医科大
学をPRしてもらおうようお願いしたと
ころ、快く引き受けてくれました。こ
れから医学部進学説明会の実施に向け
て高校と調整していきます。

学生の雰囲気から感じたことは、良
い意味で体育会系の年功序列が残って

島根県出身の自治医科大学生



いるということです。上級生は下級生
に自分の体験を話したり、下級生から
の相談に的確にアドバイスをしたりし
ていました。また、全員が学生寮に入
っていることもあり、寂しくて帰らな
くなったことはない、有意義で楽し
い生活の様子は何えました。

【医療対策課 太田】

しまね地域医療の会

平成20年度第1回「しまね地域医
療の会」を、6月28日(土) 出雲医
師会館において開催しました。

「しまね地域医療の会」は、自治医
科大学卒業医師や赤ひげバンクを通じ
て着任された医師など、県内の地域医
療機関等で勤務する医師が相互に情
報・意見交換する場で、年2回開催し
ています。

今回は、隠岐地区の会員からの要望
により、初めての試みとして「テレビ
会議システム」を使用しました。これ
により、出雲の会場での参加が出来な
い隠岐病院勤務の会員も、「テレビ会議
システム」を通じて会議に参加するこ
とが出来、大変有意義な意見交換をす

会の冒頭であいさつする中川会長
(島根県病院事業管理者)



ることが出来ました。
また、各地区からの活動報告において、島前病院・電子カルテ(シーマチャート)の導入、隠岐病院救急科の設立、飯南病院常勤医師の研修体制の充実、邑智病院地域連携室の新設、浜田地区支出事務を浜田市地域医療対策課に一元化し、効率的な運営を図った等の取り組み報告を受け、情報の共有化を図りながら、相互の意見交換を行いました。
今後もこの会議を通じ、地域医療を担う医師の交流の輪が、更に広がって行き、「しまねの地域医療」の一助を担えればと思います。

【医療対策課 石原】



飯南病院常勤医師

医師確保対策室からのお知らせ

平成20年度医師確保対策室事業概要

医師確保対策室が設置され3年目を迎えました。今年も引き続き医師を「呼ぶ」「育てる」「助ける」の3本柱を中心に事業展開していきます。

今年度の新規事業として、不足診療科医師養成事業があります。これは、自治医科大学卒業医師を従来の内科系総合医に加えて、不足する診療科の医師として養成する事業で、診療科偏在に対応するものです。

また、研修医定着促進のための諸事業を、医学生や研修医の実態を十分に把握している島根大学へ委託し、より効果的で効果的な事業実施を目指します。

平成21年度からの島根大学医学部定員5人増に対応した新たな奨学金制度を設ける予定です。

【医療対策課 太田】

医師確保対策室スタッフ紹介

当室は、木村室長を中心に昼夜を問わず医師の招聘に努めております。

全国的な医師不足の中で、地域の医療は大変厳しい状況ではありますが、県内の各医療機関と連携して、このピンチをチャンスにしていけるよう、頑張りますので、よろしくお願ひします。

7名の医師確保対策室スタッフ



今後のイベントスケジュール

▼医学生地域医療実習

8月18日～22日 県下7地区にて
(各地区日程は島根県ホームページをご覧ください)

▼高校生医療現場体験セミナー

8月5日 松江日赤、隠岐病院
8月8日 浜田医療センター

▼初期・後期臨床研修プログラムセミナー

7月19日(土) 14:00～17:00 島根大学医学部臨床講義棟1階臨床小講堂
「香川大学医学部附属病院における卒後臨床研修制度のとらえ方」
— 奇跡的<字回復の影にあるものは何か?—

講師 香川大学医学部附属病院
石田俊彦病院長

▼指導医講習会

11月22日(土)～24日(月)
島根大学医学部

島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人等に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた医師へは、医療機関の情報等を提供し、県内での勤務を支援します。

医師募集・地域医療ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアーを実施しています。旅費は県が負担します。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせいただくと助かります。携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県医療対策課医師確保対策室
TEL 0852-22-6684 FAX 0852-22-6040
E-Mail iryoutai@pref.shimane.lg.jp
ホームページ: <http://www.pref.shimane.lg.jp/iryotaisaku/>



